

熊楠ワークス

/ C / O / N / T / E / N / T / S /

特集

vol
22

『きのことともに50余年』

第13回南方熊楠賞受賞者

本郷次雄氏 1~4面

熊楠資料をデジタル化
超大型スキャナーの活用

南方熊楠資料研究会 安田忠典氏 5~6面

熊楠ゆかりの地を訪ねる20

御坊市塩屋 7面

「韓国式エステ」と熊楠 土永知子さん 8面

第4回南方熊楠ゼミナール開催決まる 9面

辛勞せねば

「とにかく辛勞せねば、ろくなものが口に入らぬと知る」
-熊楠の言葉です。

英語でもノーペイン ノーゲイン(no pain no gain)といいますが、痛みがなければ得るものもないということで、近頃よくこの言葉が身にしみます。

絵本を作っている仕事柄、あちこちに出かける取材もあって楽しいのだけれど、いざ仕事を始めるとなると、それが形になるまでの苦勞は並み大抵のものではありません。

相手の注文も聞かねばならないし、自分の作品としての方針というのもある、その調整が大変なのです。

出来上がった時の喜びもあるにはありますが、出したあとの売れゆきも気になるし、宣伝も必要でしょう。

いつまでたっても苦勞はつきないのに、なんでこんなことを続けているのか？

それは「面白いから」というしかありませんが、足を洗うにも洗えない「宿命」というヤツかも知れません。

熊楠の言葉に出会うたび、先人たちの乗りこえてきた苦勞が偲ばれ、何かにつけて慰められている昨今なのです。

絵・エッセイ/松下千恵(わかやま絵本の会代表) 絵は絵本「南方熊楠」から

